

長期維持管理技術委員会 2024 年度第 1 回 議事要旨（案）

日時：2025 年 2 月 19 日（水）15:00～17:30

場所：阪神高速道路株式会社 本社 8 階 災害対策本部室・第 1 会議室 a（8-C1 a）

出席：委員長：小林 潔司（京都大学 特任教授）

委 員：清野 純史（京都大学大学院工学研究科 名誉教授）

森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

議事：

1. 前回議事録の確認
2. 大規模更新事業の状況報告（法円坂付近）
3. 大規模更新事業の状況報告（湊町付近）
4. 大規模更新事業の状況報告（湊川付近）
5. その他

主な意見等：

○ 前回議事要旨（案）の確認

- ・内容を承認する。

○ 大規模更新事業の状況報告（法円坂付近）

- ・構造改良前は、建設時のスパン割りや車両の重量化等が損傷原因になったと推察される。構造改良により、疲労耐久性は改善されていると推察される。
- ・構造改良後も疲労耐久性が低い部分については、評価方法の妥当性検討や部分的な疲労試験の実施が望ましい。
- ・事業費について、事業化当時の想定からの変動も考慮して検討を進めること。

○ 大規模更新事業の状況報告（湊町付近）

- ・鋼製基礎の腐食部については、減肉量が小さく強度的には問題ないとのことだが、鋼材の伸び性能は低下するため、金属溶射を厚くするなどL2以上の地震時の余裕代として配慮されたい。
- ・躯体コンクリートの骨材吸水率や乾燥収縮について留意すべきである。
- ・躯体コンクリートと地下函体（脚部コンクリート）の継手部分について、適切に点検・管理されたい。

○ 大規模更新事業の状況報告（湊川付近）

- ・今後の確実なモニタリングのため、基礎データの蓄積に取り組むとともに、モニタリングに際しては閾値に固執することなく、き裂発生疑いが生じた場合は現地確認を行うことが望ましい。
- ・今後蓄積されるデータも活用し、予防保全や効率的な管理の観点も視野にいてモニタリングに取り組んでいくことが望ましい。

○ その他

- ・多くの問題がある中で本委員会が果たすべき役割を明確にする必要がある。

以 上